
音楽

gentous

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音楽

【Nコード】

N4252H

【作者名】

gentous

【あらすじ】

私は見る、或いは見ない。雨が降っていたのだ。

雨が降っていた。

私はそれを聞いていた。

葉に落ちる無数の雫はやがて乾いた土を湿らせ、そして雫達は一つになっていく。

私は何をしているのだろうか。

彼は私の目を見ない、いや、正確には私が彼の目を見ていないのだ。いつまでも視線は不規則な線を描く。

私は、彼が好きなのだろうか。

だとしたら何故彼を見ないのだろうか。

一方通行の想いが実は彼を見ないようにしているのかもしれないかった。

見られる事への恐怖。

彼の目玉が私をとらえてしまうのは私が彼を見ようとしていたからである。

お互いのまなざしは実は時間の差によってちくはぐな線で絡み合っている。

そう考えた私はそこで目眩がした。

何故人間は余計な事ばかり考えるのだろうか。

ひとつの問いの答えは別の問いでもある。

そういつた無限の問いを消化しようともがく。

しかしそれこそが考えることであり、人間なのかもしれない。

彼は見えない人だ。

そこに存在しているのにも関わらず、

「そこ」にいないのだ。

だからこうして私は彼の事を記しては、彼の存在を確認している。外で聞こえる音楽は気まぐれでだんだんとそのリズムを変え、一つの終わりを告げようとしていた。

私は伸びをして彼を見た。

彼は椅子に座り前を向いていた。

しかしそのまなざしはどこも見てはいない。

その時私は言い様のない不安と快感に支配され顔を赤らめた。

彼はいないのである。

全ては頭の中で起きていることであり、しかし現実には存在していることである。

そして小さくなった雨音が私の鼓膜を震わせ、外を見ると空には厚い雲が音もなく裂けていた。

一つの問いが現れたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4252h/>

音楽

2010年10月10日11時12分発行